

平成29年度
学校関係者評価結果報告書

平成30年6月1日

学校法人西田学園
アルファ医療福祉専門学校

学校関係者評価委員会報告書

学校法人西田学園 アルファ医療福祉専門学校は、平成30年5月25日に「平成29年度学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

平成30年6月1日作成
学校法人西田学園
アルファ医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員出席者 5名

- (1) 榎本 耕（社会福祉法人桐仁会 かしわ園施設長）
- (2) 金子智代美（福祉法人たけのうち福祉会理事長）
- (3) 小磯 英次（社会福祉法人たけのうち福祉会理事長）
- (4) 榊原 直哉（社会福祉法人福愛会 藤井保育園園長）
- (5) 松坂 健志（社会福祉法人東の会みたけ施設長）

学内出席者 5名

- (1) 瀧 将仁（校長）
- (2) 前田 恭枝（法人室室長）
- (3) 山根 満（教務課課長）
- (4) 二宮 幸太（教務課主任）
- (5) 吉田 貴博（教務課）

3. 会議の概要

(1) 校長挨拶

開会挨拶の後、職業実践専門課程及び学校関係者評価委員会についての概要、趣旨説明。

(2) 出席委員紹介

(3) 学内出席者紹介

(4) 本校概要説明

本校の沿革、学科、生徒数、就職状況等について説明。

(5) 5. 平成29年度自己評価結果について

自己点検・自己評価報告書をもとに、項目ごとの自己評価、課題、改善策について説明をした後、出席委員との意見交換、質疑応答が行われた。

4. 学校関係者評価結果

大項目	学校関係者評価
<p>基準1 教育理念 目的・育成人材像</p>	<p>評価：適切である。 課題：学校案内パンフレットに教育理念が詳しく記載されていないため、分かりやすい形で示す必要があるのではないか。養成校の選ぶ基準に教育理念をあげる学生も多いので、ビジョンもしっかり示していく必要がある。 改善策：学校案内パンフレットや HP 等による周知の機会を増やしていく。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>評価：適切である。 課題：更なる業務の効率化が必要であると感じる。 改善策：業務効率面では新たな教務システムの導入を今年度中に行い、業務の効率化を推進していく。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>評価：適切である。 課題：授業の精度の更なる向上、授業の質の均質化が必要。 改善策：授業評価アンケートを実施している。今年度から WEB で行うことで業務の効率化にも取り組んでいる。アンケート結果は教員にフィードバックをして、授業の質の向上に役立てている。また、卒業生アンケートも実施している。学校の通知表として捉え、自由記述欄での指摘を今後の学校運営に役立てていく。</p>
<p>基準4 学修成果</p>	<p>評価：適切である。 課題：国家試験合格率の向上へ一層の取り組みが必要。養成校は資格を取得させて卒業させるのが使命であり、全員資格取得できるように指導体制を強化する必要がある。 改善策：国家試験対策について、その内容について質・量ともに見直しをしている。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：退学率の低減及び留学生への対応について一層の取り組みが必要。 改善策：退学率の低減には学生のストレス耐性を高めていくことが重要であり、保護者との連携の強化が一層必要である。留学生に関しては、今後の留学生増加を見込み、体制強化をしている。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>評価：適切である。 課題：医療学科の新カリキュラムでの臨床実習先の確保、その質</p>

	<p>の担保が必要である。</p> <p>改善策：教育課程編成委員などの業界関係者からの意見を取り入れ、実習先の選定を行っていく。</p>
<p>基準7 学生募集と 受け入れ</p>	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：既存の施策の他に、SNS の強化でさらなる学校の認知度強化が必要である。</p> <p>改善策：学校の認知度強化のため、高校への訪問活動の他に、高校が主催する進路ガイダンスに積極的に参加していく。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：財務情報の公開。</p> <p>改善策：学校 HP 上での公開に向けて、現在準備を進めている。</p>
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：教育情報の公開は一定の水準できているが、自己評価や学校関係者評価等が学校 HP への掲載ができていない。</p> <p>改善策：学校 HP での公開に向けて、現在準備を進めている。</p>
<p>基準10 社会貢献</p>	<p>評価：やや不適切である。</p> <p>課題：社会貢献として、ボランティアへの積極参加への取り組みが必要である。</p> <p>改善策：ボランティア参加は将来の就業に際しても有益であると考えており、学校としてボランティア参加に対する評価の仕組みを作っていく必要がある。</p>

3. 平成 29 年度 学校関係者評価（平成 29 年度の自己評価についての評価）

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学習成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	ほぼ適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	やや不適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての 全体的な評価・意見等	全体評価で「不適切」及び「ほぼ適切」であった項目に対しては、次年度までに、課題を解決しつつ改善に努めていただきたい。また、「適切」の評価についても、小項目では「適切」ではない項目もあり、課題内容を精査し、改善への取り組みをしていただきたい。